



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月27日

上場会社名 株式会社ファンケル 上場取引所 東  
 コード番号 4921 URL <http://www.fancl.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長執行役員 (氏名)宮島 和美  
 (役職名)取締役専務執行役員 (氏名)島田 和幸  
 問合せ先責任者 グループサポートセンター長 TEL 045-226-1200  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	23,483	6.2	△114	—	△77	—	△241	—
28年3月期第1四半期	22,112	23.8	638	—	680	—	468	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △303 百万円 (—%) 28年3月期第1四半期 462 百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	△3.85	—
28年3月期第1四半期	7.34	7.25

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	82,834	68,276	81.6
28年3月期	83,767	69,639	82.3

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 67,552 百万円 28年3月期 68,909 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
29年3月期	—				
29年3月期(予想)		29.00	—	29.00	58.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

平成29年3月期(予想)第2四半期末配当金の内訳 普通配当17円00銭 特別配当12円00銭

平成29年3月期(予想)期末配当金の内訳 普通配当17円00銭 特別配当12円00銭

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	48,000	11.1	△1,000	—	△950	—	3,300	—	52.70
通期	102,500	12.8	3,000	149.1	3,100	118.0	6,200	—	99.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期1Q	65,176,600株	28年3月期	65,176,600株
29年3月期1Q	2,545,945株	28年3月期	2,553,377株
29年3月期1Q	62,626,710株	28年3月期1Q	63,767,216株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
(4) 追加情報 .....	6
3. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書 .....	9
四半期連結包括利益計算書 .....	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続いたものの、消費増税の影響が長引き、個人消費は落ち込み、生産や輸出も伸び悩むなど総じて停滞感の強い状況が続きました。先行きについては、各種政策効果もあり緩やかな回復に向かうことが期待されますが、英国のEU離脱問題による世界経済の不確実性の高まりや急激な円高の進行など景気の下振れリスクが台頭しており、留意すべき状況となっています。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、中期経営計画(平成28年3月期～平成30年3月期)の方針のもと、前期に引き続き戦略的な広告投資を実施したことなどにより、全事業が増収となり、全体では23,483百万円(前年同期比6.2%増)となりました。増収により売上総利益が増加したものの、お客様基盤の拡大のために先行的な広告投資を実施したことなどにより販売費及び一般管理費が増加し、営業損失は114百万円(前年同期は638百万円の営業利益)となりました。経常損失は77百万円(前年同期は680百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は241百万円(前年同期は468百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は13,895百万円(前年同期比2.9%増)となりました。

	平成28年3月期 前第1四半期連結累計期間		平成29年3月期 当第1四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	10,966	81.2	11,098	79.9	1.2
アテニア化粧品	1,888	14.0	2,083	15.0	10.3
boscia(ボウシヤ)	363	2.7	462	3.3	27.0
その他	278	2.1	251	1.8	△9.5
合計	13,497	100.0	13,895	100.0	2.9

	平成28年3月期 前第1四半期連結累計期間		平成29年3月期 当第1四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	5,750	42.6	6,075	43.7	5.7
店舗販売	5,127	38.0	5,063	36.5	△1.2
卸販売他	1,022	7.6	1,239	8.9	21.3
海外	1,597	11.8	1,516	10.9	△5.0
合計	13,497	100.0	13,895	100.0	2.9

ファンケル化粧品は、「エイジングケア 洗顔クリーム」のリニューアルおよびドラッグストアへの投入、「マイルドクレンジング オイル」のプロモーション効果、夏キットが好調に推移したことなどにより、11,098百万円(前年同期比1.2%増)となりました。

アテニア化粧品は、新製品「スキんクリア クレンジング オイル」などによる新規のお客様獲得や、既存のお客様向けのキャンペーンが好調に推移したことなどにより、2,083百万円(前年同期比10.3%増)となりました。

販売チャネル別では、通信販売は6,075百万円(前年同期比5.7%増)、店舗販売は5,063百万円(前年同期比1.2%減)、卸販売他は1,239百万円(前年同期比21.3%増)、海外は1,516百万円(前年同期比5.0%減)となりました。

営業損益

損益面では、増収となったものの、前年同期に対しマーケティング費用を増加させたことなどにより、営業利益は949百万円(前年同期比43.9%減)となりました。

② 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は7,666百万円(前年同期比11.5%増)となりました。

	平成28年3月期 前第1四半期連結累計期間		平成29年3月期 当第1四半期連結累計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	2,528	36.8	3,086	40.3	22.1
店舗販売	1,716	25.0	1,876	24.5	9.3
卸販売他	2,286	33.2	2,338	30.5	2.3
海外	343	5.0	363	4.7	5.9
合計	6,875	100.0	7,666	100.0	11.5

製品面では、プロモーションを展開した機能性表示食品「えんきん」や、ダイエットサプリメント「大人のカロリーミット」が堅調に推移したほか、「年代別サプリメント」の売上が伸長し、増収となりました。

販売チャネル別では、通信販売は3,086百万円(前年同期比22.1%増)、店舗販売は1,876百万円(前年同期比9.3%増)、卸販売他は2,338百万円(前年同期比2.3%増)、海外は363百万円(前年同期比5.9%増)となりました。

営業損益

損益面では、増収となったものの、前年同期に対しマーケティング費用を増加させたことなどにより、449百万円の営業損失(前年同期は48百万円の営業利益)となりました。

③ その他関連事業

売上高

その他関連事業の売上高は1,921百万円(前年同期比10.5%増)となりました。

	平成28年3月期 前第1四半期連結累計期間	平成29年3月期 当第1四半期連結累計期間	伸び率 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
発芽米	642	688	7.3
青汁	663	737	11.2
その他	433	494	14.2
合計	1,738	1,921	10.5

**発芽米**は、「発芽米 金のいぶき」が好調に推移したことなどにより、688百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

**青汁**は、737百万円(前年同期比11.2%増)となりました。

**その他**は、494百万円(前年同期比14.2%増)となりました。

営業損益

損益面では、増収となったことに加え、マーケティング費用の効率化に努めた結果、前年同期に比べて495百万円改善し、229百万円の営業損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産は、前連結会計年度末に比べて933百万円減少し、82,834百万円となりました。この要因は、流動資産の減少1,643百万円および固定資産の増加709百万円であります。流動資産の減少の主な要因は、有価証券の減少7,006百万円と、現金及び預金の増加4,834百万円および未収還付法人税等の増加などによる流動資産「その他」の増加593百万円であります。固定資産の増加の主な要因は、建物及び構築物の増加などによる有形固定資産の増加981百万円と、無形固定資産の減少176百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べて429百万円増加し、14,558百万円となりました。この要因は、流動負債の増加456百万円および固定負債の減少26百万円であります。流動負債の増加の主な要因は、賞与引当金の増加520百万円および預り金の増加などによる流動負債「その他」の増加446百万円と、支払手形及び買掛金の減少217百万円および未払法人税等の減少297百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて1,363百万円減少し、68,276百万円となりました。この主な要因は、配当金の支払いなどによる利益剰余金の減少1,306百万円であります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.7ポイント低下し、81.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月27日の決算発表時に公表した平成29年3月期(平成28年4月1日～平成29年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしました。

(第2四半期連結累計期間)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益		1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
前回発表予想	48,000	11.1	△1,000	—	△950	—	△1,000	—	△15.97
今回修正予想	48,000	11.1	△1,000	—	△950	—	3,300	—	52.70

(通期)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
前回発表予想	102,500	12.8	3,000	149.1	3,100	118.0	1,900	263.4	30.34
今回修正予想	102,500	12.8	3,000	149.1	3,100	118.0	6,200	—	99.00

平成29年3月期第2四半期において、当社が保有する投資有価証券の一部売却に伴い特別利益を計上する見込みとなったことなどにより、平成29年3月期第2四半期連結累計期間および通期連結業績の親会社株主に帰属する当期純利益の予想を修正しました。

売上高、営業利益、経常利益については前回発表予想からの修正はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備および構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

### (4) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。



3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,034	22,869
受取手形及び売掛金	9,997	9,595
有価証券	8,006	999
商品及び製品	3,548	3,717
仕掛品	26	39
原材料及び貯蔵品	3,787	3,944
その他	2,969	3,562
貸倒引当金	△51	△54
流動資産合計	46,317	44,674
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,355	26,907
減価償却累計額及び減損損失累計額	△14,513	△14,704
建物及び構築物（純額）	10,841	12,202
機械装置及び運搬具	7,552	7,588
減価償却累計額及び減損損失累計額	△6,282	△6,364
機械装置及び運搬具（純額）	1,270	1,223
工具、器具及び備品	7,600	7,755
減価償却累計額及び減損損失累計額	△6,490	△6,515
工具、器具及び備品（純額）	1,109	1,240
土地	11,951	11,920
リース資産	386	399
減価償却累計額及び減損損失累計額	△227	△249
リース資産（純額）	158	149
その他	1,230	806
有形固定資産合計	26,562	27,543
無形固定資産		
その他	2,639	2,462
無形固定資産合計	2,639	2,462
投資その他の資産		
投資有価証券	5,656	5,472
その他	2,591	2,681
投資その他の資産合計	8,248	8,153
固定資産合計	37,449	38,159
資産合計	83,767	82,834

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,547	2,329
未払法人税等	898	600
賞与引当金	1,074	1,595
ポイント引当金	1,507	1,512
その他	6,115	6,562
流動負債合計	12,143	12,599
固定負債		
退職給付に係る負債	1,324	1,298
資産除去債務	385	402
その他	274	257
固定負債合計	1,984	1,958
負債合計	14,128	14,558
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,706	11,706
利益剰余金	50,134	48,828
自己株式	△3,706	△3,695
株主資本合計	68,930	67,634
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	146	80
退職給付に係る調整累計額	△166	△162
その他の包括利益累計額合計	△20	△82
新株予約権	729	723
純資産合計	69,639	68,276
負債純資産合計	83,767	82,834

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	22,112	23,483
売上原価	6,519	7,054
売上総利益	15,592	16,428
販売費及び一般管理費	14,954	16,542
営業利益又は営業損失(△)	638	△114
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
受取賃貸料	26	26
雑収入	41	44
営業外収益合計	69	72
営業外費用		
固定資産賃貸費用	8	8
為替差損	13	17
雑損失	5	9
営業外費用合計	27	36
経常利益又は経常損失(△)	680	△77
特別利益		
固定資産売却益	0	0
新株予約権戻入益	0	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産除却損	9	4
減損損失	-	59
店舗閉鎖損失	3	3
その他	0	0
特別損失合計	12	67
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	668	△142
法人税、住民税及び事業税	604	407
法人税等調整額	△403	△308
法人税等合計	200	99
四半期純利益又は四半期純損失(△)	468	△241
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	468	△241

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	468	△241
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2	△66
退職給付に係る調整額	△3	4
その他の包括利益合計	△6	△61
四半期包括利益	462	△303
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	462	△303
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	13,497	6,875	1,738	22,112	—	22,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,497	6,875	1,738	22,112	—	22,112
セグメント利益又は損失(△)	1,692	48	△724	1,016	△378	638

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△378百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに所属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	その他 関連事業 (注) 1			
売上高						
外部顧客への売上高	13,895	7,666	1,921	23,483	—	23,483
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,895	7,666	1,921	23,483	—	23,483
セグメント利益又は損失(△)	949	△449	△229	270	△384	△114

(注) 1 「その他関連事業」は、雑貨、装身具類、肌着類、発芽米、青汁等で構成されております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△384百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに所属しない親会社本社の総務部門等に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。